

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2023年8月5日
明治大学の所属学部・研究科	国際日本学部/国際日本学科(学部/学科/研究科/専攻等)
留学(渡航)した時の学年	3年生
帰国年月日	2023年7月21日
明治大学卒業予定年月	2025年3月
留学先大学について	
留学先国	Austria
留学先大学	ウィーン大学(日本語名) Universität Wien(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語・ドイツ語/英語
留学期間	2022年8月～2023年7月
留学先大学で在籍した学年	3～4年生
留学先の所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名(日本語):政治学部 (現地言語での名称):Politikwissenschaft <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 記入例:1学期/4月上旬～7月下旬、 2学期/9月中旬～2月上旬	1学期:10月上旬～1月下旬 2学期:3月上旬～6月下旬 3学期: ～ 4学期: ～
学生数	約9万人
創立年	1365年

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (ユーロ)	日本円	備考
授業料	0	0円	
宿舍費	9308	1349660円	€759/月・ベッド代
食費	2310	334950円	買い出し費用と外食費
図書費	50	7000円	約7000円
学用品費	10	1450円	電卓・蛍光ペン
携帯・インターネット費	90	13050円	必要な時に月額契約をしていた
現地交通費	214	31030円	定期券・空港までの電車賃(<input type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	691	100195円	ドラムスティック・Tシャツ・ドラムヘッド
被服費	700	101500円	パーカー・国連・サッカーユニフォーム・
医療費	1620	234900円	私立病院皮膚科
保険費	726	105270円	形態:健康保険
渡航旅費	3448	500000円	計3回の旅行
ビザ申請費	165	23925円	
雑費	380	55000円	食器・水周り用品など
その他		円	
その他		円	
合計	19712	2858240円	約300万円

渡航関連	
渡航経路	
往路 出発地:成田空港 目的地:ウィーン国際空港 経由地:ドバイ国際空港	
復路 出発地:ウィーン国際空港 目的地:成田空港 経由地:ドバイ国際空港	
渡航費用	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社:Emirates 料金:230000	
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:Emirates 料金:X 復路 航空会社:Emirates 料金:Y ∴合計:X+Y>230000	
航空券購入方法	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:)	
<input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:Emirates 公式サイト)	
<input type="checkbox"/> その他()	

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)
<input type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:) <input checked="" type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
2)部屋の形態
<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数)
3)共有部分
<input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> キッチン(<input type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)
4)住居を探した方法:
ネットで検索
5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)
安全性の高さが強み。1～33 階まであり、上層階はホテルになっている。家賃は 10 万円前後である。楽器演奏が毎日 2 時間許可されているので、音楽家の学生はぜひ滞在すべき。定期的に交流会を地下 1 階で行っているの、興味があれば参加することをお勧めする。
現地情報
1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院、学内の診療所)
<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり (治療を受けた場所:現地の私立皮膚科病院)
2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。(例:留学先大学の相談窓口、現地の友人等)
<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (問題の内容や相談した人等:)
3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?
危険地域情報収集方法:現地大使館の発信するニュースを確認する 防犯対策:あり 鞆に鍵をつける・貴重品は肌身離さず身につける・様子をうかがうような人がいた場合、メンチを切る 犯罪に巻き込まれた経験:なし
4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)
アパートでのインターネット接続:不具合無し・たまに停電が起こり、使用不可になった 野外でのインターネット接続:町中は接続が悪い・店舗(スーパー・飲食チェーン店等)では接続可能 携帯電話:必要な時に月額契約をしていた。
5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)
娯楽費・生活費:MUFJ 銀行から Wise 口座に対し、日本から両親に送金してもらった。 家賃・医療費:現地の銀行(Erste Bank)で口座を開設。その後、MUFJ から Erste Bank の口座へ日本から両親に送金してもらった。 娯楽費:現地でのドラム演奏を通じ、聴衆から寄付金を貰っていた。
6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。
流せるトイレクイックル・シャープペンシルと芯・就活関係の本・圧縮袋・乳液
7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
21 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々へのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to Media and Politics	媒体と政治入門
科目設置学部・研究科	Publizistik und Kommunikationswissenschaft
履修期間	10/13~1/26
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 90 分が 1 回
担当教授	Hajo Boomgaarden
授業内容	メディアと政治の関係について紹介する。メディアと政治は 2 つの複雑なシステムであり、異なる領域で相関し、社会に大きな影響を与える。権利、プロセス、アクターといった問題に焦点を当て、最終的には民主主義やシチズンシップの研究につなげる。
試験・課題など	課題: 数十ページの論文読み 試験: 講義で扱ったテーマからいくつかランダムで提示されたものに対して、論述する。
感想を自由記入	難易度が高い講義だった。大学院生向けに開講されており、それなりの事前知識が必要だと感じた。政治以外にも、基本的な統計知識が習得できていなければ、論文内のデータ分析が困難である。プレゼンも、統計付きの論文を基に行うので非常に難しかった。先生は優しく、講義内でも質問に積極的に答えて下さった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Marketing Communication 1		販売対話 1	
科目設置学部・研究科	Wirtschaftswissenschaften		
履修期間	10/5~1/25		
単位数	4		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 90 分が 1 回		
担当教授	Ifigeneia Leri		
授業内容	マーケティング・コミュニケーションに関連する主要な概念と理論を批判的に研究。また、組織がマーケティング・コミュニケーションを利用する様々な方法と、マーケティング・コミュニケーション活動の背後にある理由を提示する。実践的な事例や学術論文の主なトピックは、理論的な背景を補完する。		
試験・課題など	試験: 中間試験・期末試験 課題: 教科書の予習		
感想を自由記入	基本的な内容を扱う講義であり、かつ論文参照がなかったため理解しやすい講義だった。教科書の内容を先生が分かりやすく説明してくださるので、非常に助かった。 中間試験はマーク式、期末試験は記述式だった。マーク式の試験は比較的簡単で、スライドの内容さえ押さえさえすれば 7 割以上の点数は取れる。記述試験は勉強が必要で、ケーススタディに近かった。与えられたお題に対して、どのようなマーケティング手法を使用すればよいか、理由と具体的な使用方法を記述する必要があった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Policy in the EU		欧州連合の政策	
科目設置学部・研究科	Wirtschaftswissenschaften		
履修期間	10/3~1/16		
単位数	5		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 90 分が 1 回		
担当教授	Lola Raich		
授業内容	講座は 3 部構成となっており、第 1 部では以下のような内部政策(単一市場・EMU)に焦点を当てる。第 2 部では EU の対外的側面に焦点を当て、国際貿易、拡大、共通外交・安全保障政策(CFSP)、環境保護などの政策を取り上げる。第 3 部では、世論、民主主義の欠如、EU の正統性など、現在 EU 研究の言説を支配している問題に触れる。		
試験・課題など	課題: 毎回のエッセイ(250 語)・期末エッセイ(2000 語)		
感想を自由記入	EU の仕組みについて理解が深まった一方、宿題量と講義形態に圧倒された講義だった。 宿題: 250 字のエッセイは、教科書と論文の内容(約 30 ページ)を参考にする必要があり、読み込むだけでかなりの時間を要した。期末エッセイに関しては、自由論題で自分の考察を深めたい内容をお題として作成する。2000 字は多い印象だが、書いてみるとそれほどでもない。 講義: 学生主体の講義だった。学生の発言から議論が始まり、先生は意見に対する助言や更なる問を立てる。発言回数や内容が評価の対象になるため、最低 1 回は発言していた。アジア人の私にとっては、事前知識がほぼ皆無に等しく、発言も一苦労だった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Political Processes and Governance in the EU		欧州連合の立法過程と統治	
科目設置学部・研究科	Wirtschaftswissenschaften		
履修期間	10/3~1/16		
単位数	5		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 90 分が 1 回		
担当教授	Lola Raich		
授業内容	講座では、a)意思決定プロセスとモデル、b)EU の主要な 制度上の主なアクターと、近年の危機がその機能・義務や相互関係に与えた影響、c) EUMS の役割について取り上げる。授業は以下のように構成される: グループ・プレゼンテーション(30 分以内)、小グループ・ディスカッション(~15 分 少人数でのディスカッション(~15 分))。		
試験・課題など	課題: 毎回のエッセイ(250 字)・期末エッセイ(2000 字)		
感想を自由記入	EU の仕組みについて理解が深まった一方、宿題量と講義形態に圧倒された講義だった。 宿題: 250 字のエッセイは、教科書と論文の内容(約 30 ページ)を参考にする必要があり、読み込むだけでかなりの時間を要した。期末エッセイに関しては、自由論題で自分の考察を深めたい内容をお題として作成する。2000 字は多い印象だが、書いてみるとそれほどでもない。 講義: 学生主体の講義だった。学生の発言から議論が始まり、先生は意見に対する助言や更なる問を立てる。発言回数や内容が評価の対象になるため、最低 1 回は発言していた。アジア人の私にとっては、事前知識がほぼ皆無に等しく、発言も一苦労だった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
UK Principles of International Business		イギリスの国際事業の原理	
科目設置学部・研究科	Wirtschaftswissenschaften		
履修期間	3/6~6/26		
単位数	4		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に 90 分が 1 回		
担当教授	Aikaterini Makri		
授業内容	国際ビジネスの中核となる概念と、それらが国際ビジネス戦略の力学と制約にどのように適用されるかを学ぶ。そして、経済的、政治的、社会文化的な環境のダイナミクスと、それが国際企業や個人に与える影響を考察する。講義は、2 つのマクロパートで構成されている。第 1 部では、理論的な観点からコースの全トピックを紹介し、実践的なケースを継続的に紹介する。第 2 部では、実際のケーススタディについて、実践的な観点から応用できるよう、数回にわたってディスカッションを行う。		
試験・課題など	試験: 中間試験・期末試験		
感想を自由記入	資格資料を使いながら丁寧に説明して下さるので、わかりやすい講義だった。試験に関して、中間試験は選択式、期末試験は記述式だった。記述内容は講義で学んだ理論を理解しているかが問われ、単純な内容だった。		

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:休学

2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など

外資就活.COM・キミスカ・Type 就活・リクナビ

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

コンサルティング業界・音楽業界

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。

(例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

留学中の準備:ES 作成・Web 試験・面接対策・フェルミ推定・問題解決型試験の対策を行う

帰国後の活動:インターンシップ参加・国内本選考参加

感想・助言:コンサルティング企業を狙うのであれば、それなりの対策が必要。思考方法が問われる場合が多いので、普段からニュースや出来事に対してどのような考えを持っているか、理由と共に説明できるようにしておくこと。夏のインターンシップに関しては、積極的に参加するほうが良い。ほとんどの企業は ES・試験・Group Discussion をインターン選考で課してくるので、3 つの対策を徹底すべき。BCG や Accenture はフェルミ推定も面接中に聞かれるので要注意。

音楽業界に関して、日ごろの練習を欠かさない方が良い。オーディションがメインなので、高いリズム力と技術が要求される。メロノームや基礎練習を固めたうえで、応用技術を習得し、演奏に活かすべき。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

ビジネスと音楽に関してやりたいことが見つかったため、1 年間休学する。

ビジネスに関して、自分に最適な企業を選定する必要性を感じた。インターンシップの参加を通じ、ネット情報からは知り得ない企業の雰囲気や社員の様子を体感する予定だ。業務内容と企業文化が自分に合っている企業を見つけるにはそれなりの時間がかかると判断し、1 年間休学する。直近の目標は、コンサル系のインターンに参加し、業務や雰囲気を体験することだ。

※2022 年に留学時期とインターンシップ開催時期が重複したことが原因で、企業研究が十分に行えなかったことを前提として記入。

音楽に関して、自分の市場価値を日本で最大化したいと考えた。留学先で、無名の状態からコンサート出場まで成し遂げた経験を活かし、日本では積極的にドラムの求人に応募しようと考えている。直近の目標は、路上ライブの開催・バーやクラブでセッションドラマーとして参加することである。

助言

留学先での経験が将来の進路に大きく影響を及ぼす可能性があります。もし、その経験に基づいた目標が大学生のうちには達成できないのであれば、優先すべきだと考えています。就職活動と並行して進めるのは骨が折れるかもしれませんが、精を尽くしてみてください。そうすれば、思いがけない形で成果が出るはず。常に全力で目標を叶えましょう。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、
期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	勉強・ドラム練習
	4月～7月	勉強・ドラム練習
	8月～9月	勉強・ドラム練習
	10月～12月	勉強・ドラム練習
留学開始年	1月～3月	アパート探し・勉強・ドラム練習
	4月～7月	アパート契約・ジャパンドリーム財団への書類提出・注射・航空券購入・MA35, MA22 OJK 予約・勉強・ドラム練習
	8月～9月	無犯罪証明書取得・戸籍謄本取得・アポステイーユ認証申請・住民票取得・口座開設・保険加入・試験勉強・語学学校試験・路上ライブ
	10月～12月	ビザ取得・エッセイ作成・試験勉強・中間試験・旅行・路上ライブ
留学/帰国年	1月～3月	エッセイ作成・試験勉強・期末試験・旅行・路上ライブ・コンサート
	4月～7月	試験勉強・期末試験・ES作成・面接・フェルミ推定・旅行・路上ライブ・コンサート
	8月～9月	就活・ドラム練習
	10月～12月	就活(?)・ドラム練習

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

大学選定理由

理由に関して、欧州留学を志した理由と、ウィーン大学選定理由に分けて記述する。

欧州留学を志した理由は、中学 3 年次に初めての海外旅行をしたからだ。私は中学3年次の夏、フィンランドの友人宅に訪れた。その際に知った欧州のすばらしさが決め手となり、大学での留学を決意した。現地での働き方や暮らし方について友人の母親から伺うにつれて、日本にはない魅力的な点が明確化されていった。それと同時に、欧州での生活に憧れるようになった。この経験が肝となり、中学修了時にはすでに欧州の大学で留学することを決めていた。高校 1 年次には、具体的な留学先大学を検討し始めた。

ウィーン大学への留学を志した理由は、2 つある。「伝統があり、生活環境の良い場所に位置している欧州の大学」・「様々な分野の講義を学ぶことができる大学」の 2 つの条件を据えていた。伝統ある大学を条件にした理由は、自分の学力が海外の優秀な大学で通用するか、優秀な学生と学ぶことで自分を成長させられるかを検証したかったからだ。今まで勉強と真剣に向き合い、結果を残してきた私にとって、これは一番重要な指標だった。生活環境を条件にした理由は、様々な場所にアクセスしやすい環境下で多様な文化や人々と交流することで自分の視座を広げたかったためである。欧州にはエラスムス制度という欧州圏内の学生の留学促進を目的とした制度が存在する。この制度を生かし、多くの学生が国外の大学で学んでいる。私はそのような背景の異なる学生と学ぶ過程で、いろいろな価値観に触れ、多様性を受容できる姿勢を養った。学ぶ分野に関しては、経済・政治・社会科学・音楽・経営等、一つの学部では網羅しきれないほど幅広い分野の講義を履修したかったためこの条件を加えた。1 つの分野に固執するのではなく、様々な学問を経験することで広い知見を得ることも重要である。

留学を志す後輩学生への助言

目と足を使って留学先は調べてみてください。ネット情報や明治大学の先輩方の留学体験記等からの情報も重要ですが、ぜひ一度現地を訪れてみてください。雰囲気や人々の様子などを実感することで、新たな気づきがあるかもしれません。私は高校修了までの 3 年間、毎年夏休みに欧州旅行の一環として海外の大学に実際に訪れていました。先述した 2 つの留学先大学決定軸を基に、 Lund 大学(スウェーデン)・ウィーン大学(オーストリア)・コペンハーゲン大学(デンマーク)の 3 大学に最終候補を絞りました。実際に訪れたところ、3 大学とも伝統や多様性はあったものの、生活環境にはばらつきがありました。Lund 大学は都市部へのアクセスが、コペンハーゲン大学は物価が私の希望と多少の差がありました。その一方、ウィーン大学は伝統・生活環境・講義内容ともに私の理想に一番近かったです。ウィーン大学はオーストリアで一番歴史のある大学であり、かつ首都の中心部に位置しています。欧州の中でも中欧に位置しており、欧州の様々な国からの留学生も多いです。また、留学生・現地学生問わずすべての学生が様々な学部の講義を履修できます。以上の理由から、私はウィーン大学への留学を決意しました。

ある程度大学を絞り込んだ後、本当に自分に最適な学校を割り出すためには、現地に訪れてみてください。